令和四【二〇二二】年度　修大協創高等学校卒業新聞

「門出」学年主任・担任・副担任より　お祝いの言葉

「『自分』で決まる」

高校三学年

学年主任　田尻田　洋一

自分が負けたと思わない限り負けることはない。その出来事に意味を決めるのは自分だけなのだ」。これは世界水泳で通算11個の金メダルを獲得した水泳選手の言葉である。人は生活の中で自分の行動を批判されたり、失敗を批難されたりすると、自分で自分を卑下して惨めに感じてしまう。しかし、その時の自分を惨めに感じてしまうのは自分がそれを受け入れてしまっているからだ。批判されても、自分が正しいと思える行いをしたのだから」、失敗を咎められても、「その失敗は成功をつかむための土台になるから」と自分に強い信念さえあれば、失敗や後悔は結果ではなく過程へと変化する。君が認め受け入れない限り、誰も君を惨めにさせることはできない。そして、その信念はその時その時を懸命に精一杯過ごすことでしか持つことはできない。社会の激動化は足を緩める気配がない。そんな社会を渡る君たちに十一ルを送る。魂は頑固であれ、心は柔軟であれ、そして身体は活発であれ」と。これからの活躍と健闘を祈る。

「心と体の健康維持へ」

三学年　1学級　担任　谷口　直哉

私はこれまで保健・体育の授業を通して心と体について話をしてきました。体への異常は発熱や腹痛など痛みとして出ることが多いため、処方がしやすいといわれています。そしてこれから皆さんは体とともに心もケアしていく必要があります。心の異常とはなかなか周囲には理解してもらえず、時には思い詰めてしまうことも考えられます。体をお風呂等でどれだけ温めても、心の冷え込みはそういったものではなかなか温まりません。そんな心の風邪には「感動」が最も適切であると私は思います。心が熱くなる言葉や行動を体感していくことこそが心をケアする大切なことであると感じています。人は生きていると当然辛いことや逃げたくなることがよくありますが、何かが心を動かしてくれると最後までやり遂げることができると信じています。「諦めない」とてもシンプルで分かりやすい言葉を1組の皆さんにはお話させてもらいました。心と体を大切にし、新時代を築くことのできる大人になって欲しいと思います。

「キセキ」

三学年　2学級　担任　森　貴博

「卒業おめでとう」ございます。この高校生活は、みなさんにとって本当に辛く、苦しいものだったのではないでしょうか。入学して間もなくオンライン授業になり、行事の規模縮小や軒並みの延期・中止。先生たちが覚えている限りでもあまり明るい話題はそう多くなかったように思います。それでも、この3年間この卒業を迎えるまで本当によくがんばりました。

この学校に着任して初めて担当した学年であり、初めて担任をした学年でもあるので、個人的にはとても思い入れがあります。そして皆さんには本当に色々な経験をさせてもらい、学ばせてもらいました。

これからそれぞれが新たなステージに進んでいくわけですが、これまでの、そしてこれからの出会いを大切にしてください。同じ苦しみを味わった仲間はかけがえのないものはありません。またそのような経験や出会いは自ら望んで手に入れることのできるものでもありません。そうした「キセキ」を大切に、これからも皆さんらしく頑張ってください。

「学びと挑戦」

三学年1・2学級　副担任

修大コース主任　片江　公美

卒業おめでとうございます。

ひろしま協創高校での3年間はどうでしたか。コロナ禍でもどかしさや不安な日々と戦い、立派に卒業していくみなさんに送りたいメッセージがあります。

今日から、みなさんは「学校」という場を離れて、新たな学びの場に旅立ちます。そして、新たな学びの場が終われば、また新たな挑戦の場が待ち受けています。人生は学びと挑戦の連続です。これから先、たくさんの人に出会い、たくさんのことを学んでください。たくさんの困難にぶつかり、失敗しながら何度も立ち向かっていってください。素敵な人たちに出会い、困難から逃げず挑戦した経験は、人生を豊かにして、どんな時も踏ん張れる力になります。どんな環境に置かれても「学びと挑戦」を忘れずに過ごしてください。

「雪に耐えて」

三学年3学級　担任　野々村　真弓

雪の日に、梅の花が咲きました。私の実家にある梅の木が、若むしの老木が、降りしきる雪の中で花を咲かせたのです。西郷隆盛の「雪に耐えて梅花麗し」という言葉を思い出しました。雪に咲く梅の花は、なぜ美しいのでしょう。

私の母は、長い間、病に耐えてきました。意識がなくなってからも私たち家族の呼びかけは届いていたようで、死なないで、息をとめないで、と泣き叫ぶ声にあわせて、息を吸い、息を吐き、手を握れば握り返し、その時できる精一杯のことを全力でやり抜きました。医師が予測した時刻から八時間以上も、がんばったのです。身内をほめるようで申し訳ないのですが、美しい最期でした。

人生には辛いことがたくさんあります。厳しい時代がやってくる、とも言われています。いつも努力する必要はない、あきらめが肝心な場合だってあるでしょう。けれども、がんばらなくてはいけない時、あきらめてはならない時も、必ずあります。そのような時は梅の木を見て、さらに少しだけ耐えてみてはどうでしょう。夢がかなうかもしれません。かなわなかったとしても、がんばる姿はきっと誰かに勇気を与えます。母が私に勇気を与えてくれたように。

この学年には、三年間、あるいは六年間、辛いことに耐えて、がんばり抜いた人がたくさんいます。そんなみんなに心を込めて言いたいと思います。

「卒業、おめでとうございます。

幸多き人生を、生きてください。

「自分の可能性を信じて」

三学年　4学級　担任　勝田　隆正

卒業生のみなさん、「卒業おめでとうございます。これから輝かしい未来が待っているみなさんに、私からは「まず、やってみる」ということをお伝えしたいと思います。

何事もやる前から「私にできるわけない」「そんなの無理だ」と何も始まっていないのに自分の可能性を見限り、はじめることも挑戦をすることもしない人がいます。私はそういった話を聞くと、もっ

たいないな」と感じます。何事もやってみないと何もわかりません。食べ物だってそうですよね。食べる前からおいしくなさそう、と決めつけて食べもせず嫌い、としてしまう人はそれだけで一つの可能性を失っているわけです。だから、みなさんにお願いしたいのは、できるかどうかわからない、けど まず、やってみる」を実践してほしいと思います。できなくて失敗してもいいのです。それが長い人生のうちの、一つの経験となってこれからのみなさんの成長につながってくれると思います。また大きく成長を遂げたみなさんに会える日を心待ちにしています。

夢を持ち 心の弾力性を」

三学年3・4学級 副担任 島村 雅浩

卒業おめでとうございます。今から夫々の道に進んでいくわけですが、再度、自分の将来を見据え「夢」を持ち、その夢に向かって、道は険しいかもしれませんが決して夢を諦めず、焦らず少しずつ前進してください。

この三年間を振り返ってみると、とにかく新型コロナウイルスの影響で皆さんの楽しいはずの高校生活が殆ど思うようにいかなかったのが現実だと思います。また、日々の報道も憂鬱なことが起きており、社会全体がストレスを抱え多くの人が限界を感じているように思われます。そこで皆さんにはそのような状態に陥らないよう、「心の弾力性を」高めて欲しいと思います。

私は、スポーツを通して心を高める二つの方法を学びました。一つ目は、「笑い」です。笑うことは、脳と身体に良い影響を与え、体の健康は勿論のこと心の健康にも「笑い」は有益です。いつも大声をあげて笑っている人は、鬱になりにくいものです。更に、笑いには人の心を明るくし、柔和で好意的にさせてくれる偉大な力があります。二つ目は、「リラックス」です。ストレスを感じると血管が収縮し、脳・内臓・筋肉に悪影響がでます。スポーツ選手にとっても、リラックスしながらプレーすることはとても大切なことなのです。これから厳しい世の中へ歩みを進める皆さんには、夢を持ち続け、心の弾力性を高め、最高のパフォーマンスを発揮できることを期待しています。

「夢 なき者 理想なし」
理想なき者 目標なし」
目標なき者 実行なし」
実行なき者 成果なし」
成果なき者 喜びなし」

よき人生は、この繰り返しであり、喜びを得られる者には、「心の弾力性」がある。

「成長」

三学年 5学級 担任 清水智亮

5学級の担任として、高2、高3と過ごしてきました。振り返ってみると、入学時から新型コロナウィルスの影響で、学校行事等に制限がかかり、思い描いていた高校生活を過ごせず、辛い思いを抱いてきたのではないでしょうか。その中でも目標の進路に向けて、努力し、成長する姿に日々感動するばかりでした。また、私自身数学科教員として、授業はもちろんのこと、放課後補習に集まってくれた皆さんと楽しく勉強できたことはかけがえのない思い出です。これから新しい道に進み、更なる成長をしていくことを願っていますが、その過程の中で、時には失敗し、後退しつづける時期もあるかと思います。それでも自分の信じた道を進み、自分自身と向き合っていき、成長してほしいと思います。秤は常に自分自身の中にあります。その秤を使いながら自分の限界を少しずつ超えていってください。無理せず、健康にも気をつけてください。ご卒業おめでとうございます。

「卒業にあたって」

三学年 6学級 担任 廣兼 宗諒

みなさん、ご卒業おめでとうございます。初めてこの学年に所属することになり、感じたことは活気のある学年だという印象でした。

私自身、高校3年生の頃にはもっと静かで、皆さんに比べ、自分の意志をきちんと伝えることができない学生でした。また、現在はそんな活発な皆さんに元気をもらう毎日でした。

人間には「個性」があります。皆さんには一人ひとりいい部分がたくさんあります。今までの学校生活では苦手な部分を注意され、改善しなければならないことが多かったのではないかと思います。今後、社会に出ていく皆さんには、苦手な部分を減らすことよりも自分の個性や長所を伸ばしていくことに力を注いでほしいと思います。

友人など周囲の人々を大切にすることはもちろんですが、自分自身を大切にできる人になってほしいと考えています。成長した皆さんに会えることを楽しみにしています。

「何事にも前向きに!」

三学年 5・6学級 副担任 稲田 紀子

皆さんとは三年生の一年間だけ、一緒の学年で過ごしてきました。全クラスの授業担当をしたり、進路の話をしたりと、たくさんの人と個人的にも進路指導をさせてもらいました。私からのダメ出しに対して「むことなく、何度も「面接練習をしてください!」と言ってきてくれたこと、本当に嬉しく思います。高校生活で頑張ってきたことや経験は、これからの人生において全て糧になります。糧とは、自分を力づける原動力となります。どの経験も一つとして無駄なことはありません。高校生活で得た糧を今後の人生に大いに役立ててください。

「コロナ禍で疲弊した日本経済の救世主と言われ、社会現象と呼ぶべき「鬼滅の刃」ブームは記憶に新しいと思います。その作者である吾峠呼世晴さんの読者に向けた言葉(抜粋)をみなさんに伝えて、はなむけの言葉とします。

「何かを素晴らしいと思ったり、感銘を受けたという場合は、そう感じることができた方の心映えや感性が素晴らしいのだと思っています。」

これからの生活はコロナ後と言われています。いろいろな場所に行って、いろいろなことに出会えるチャンスが待っています。感動したり、感銘を受けたり、たまには挑戦することも必要となるでしょう。その時は失敗やミスを恐れずに、自分の感性が磨かれ、成長していると思ってください。「何事にも前向きに!」陰ながら応援しています。

卒業おめでとう!